

シカとの衝撃事故による貨物列車への影響について

平成22年11月17日

近年、「シカ」の個体数急増により、農作物への被害、自然植生への食害のほか、市街地への出没による交通事故等が発生し、深刻な社会問題となっています。このため、多くの自治体がその対策に頭を悩ませています。

鉄道貨物輸送においても、シカを主とした鳥獣類との衝撃事故が年々増加し、今年度上期は前年を大幅に上回る103件の事故が発生しています。当社としても、衝撃を避けるために気笛吹鳴等を行ない事故防止に努めていますが、有効な対策が見出せず大変苦慮しています。また、事故発生後は現場で車両点検を行うため、後続列車を含めて遅延の影響が生じますが、今年度上期では約700本の列車が遅延し、終着時点では8時間程度の遅延に至るケースがありました。

特に、鉄道貨物輸送の大動脈である東海道・山陽線では、岐阜県と滋賀県の県境、兵庫県と岡山県の県境付近で集中して発生しており、鉄道の“強み”である“定時性”が大きく損なわれ、安定輸送阻害の大きな要因となっています。

当社では、今後とも関係自治体、旅客鉄道会社等との連携を密にし、貨物列車の安定輸送を確保するために有効な対策の確立に向けて努力してまいります。

(注) 兵庫県では、今年度の捕獲目標をこれまでの2万頭から3万頭に引き上げている他、10月から新たに「シカ捕獲対策チーム」を設置するなど、被害の拡大防止に向け取り組んでいます。

